

坂本龍馬と知多の札

尾州古札研究会 会長 本美 吉朗

新年明けましておめでとう
ございます。二〇二六年もよ
ろしくお願いいたします。

さてこれから述べることは、
小生の推測でもないし、針小
な事実を拡大解釈したものでも
ない。明確な記録に残って
いる事実である。

幕末から明治初期、薩摩藩
をはじめ、会津藩、安芸藩な
どでも、二分金の贋金を鋳造
していたことが判明している。
特に薩摩藩は、かなり早い時
期から鋳造技術者をわざわざ
江戸から呼び寄せ、相当な額
の贋金を作ったとされている。
その贋二分金を薩摩から持つ
てくるように坂本龍馬（写真
1）は岡内俊太郎という人物



写真1 坂本龍馬

に命じた。そして龍馬は岡内

に「土佐藩でも薩摩藩と同じ
ように贋二分金を作って戦乱
に備えるべき」と言った。龍

馬から密命を受けた岡内は下
横目という土佐藩の治安機関
の内最下位の職種に属する土

佐藩の官吏であった。この岡
内俊太郎が上司である土佐藩
の重役佐々木高行に宛てた手

紙に、こういう記述がある。
「出達（イカルス号事件の用
件で長崎から薩摩藩への出港

のこと）の際、私へ龍馬より
の心付に依り薩摩に於て作り
居る二分金の模様仕上り品を

探り取来り、薩摩同様之（こ
れ）を本藩に於ても作らずて
は、事を発したる時差支へを

生ぜん」。こうして龍馬から命
令された岡内は苦勞の末、薩
摩の英学塾の留学生から贋二

分金を手に入れることに成功し
た。ところでなぜ龍馬は岡内
に頼んだのだろうか？ それ
は、龍馬が岡内俊太郎に絶大

な信頼を寄せていたからだと思
われる。岡内は龍馬の周りに
いた百戦錬磨の猛者たちとは
ちよつと違い、「誠実な役人」
というキャラクターを持ってい
た。

岡内俊太郎は、大政奉還前
後の龍馬の活動を大きく助け
ている。龍馬が、千丁のライ

フルを持って土佐に帰郷した
時も同行していたし、大政奉
還の会議の日、後藤からの手

紙を龍馬が開封した時も、そ
の座にいた。こうして岡内が
入手した贋二分金を見た龍馬

は大喜びした。そして、すぐ
に岡内にこういうことを言っ
た。「土佐藩の上層部に、贋金

を製造するように言え」と。
岡内は、その通りに、土佐藩
の上層部に献策した。土佐藩

の上層部は「今すぐには出来
ないが、必ず検討する」と返
答した。しかし贋金を強力に

推進していた龍馬は、岡内が
藩に献策した直後に、残念な
がら京都で暗殺されてしまっ
ていた。

ところで土佐藩は、この計
画を実行するまでには随分と
逡巡したようである。なにし

ろ、贋金製造というのは重罪
であるからである。慶応四年
（後になって明治元年）二月

二二日、土佐藩の征討総督の
深尾左馬之助（家老）が、土
佐藩の国元の家老あてに次の

ような意味の手紙を送ってい
る。「贋金鋳造は、藩内に異
論があつて中断されているが、

大坂藩邸では準備をしている
ことだし、山内容堂公（藩父）
も了解されていることなので、

早急に開始されたし」。やがて
鳥羽伏見の戦いの後、ついに
土佐藩は、官軍の東征に参加

することを決定した。しかし、
江戸や東北に遠征するにはお
金が必要である。当時の土佐

藩の財政は火の車であり、軍
費の捻出は急務であつた。そ
してようやく土佐藩は、明治

元年春頃に贋金製造に着手す
るのである。

土佐藩の贋金製造は、最初、
大坂の藩邸（蔵屋敷）で行わ
れたようである。その後、贋

金製造工場は、土佐の故吉田
東洋邸に移されたという（「岩
崎弥太郎」松村巖著）。土佐の
歴史資料集である『皆山集』
の第七巻にも土佐城下の吉田

東洋邸で贋金を鋳造していた
という記述がある。こうして
土佐藩の贋金作りは、国を挙

げて行われた。藩では、二分
金の原材料となる金銀の供出
を領民に求めた。「大量の寄付

をした者は土分を与える」と
いう特例まで発した。幕末に
土佐の領民の日常を詳細に記

録した『真覚寺日記』には、
明治元年の閏四月二十二日付
で「一分銀を作るために他国

の銀座の職人が百五、六十人ば
かり上町に滞留している」と
も書かれている。但しここで

は「一分銀を作るため」と書
かれていたが、これは「二分金」
の間違いだろうといわれている。
なぜならこの日記の執筆

者は一般庶民である寺の住職
であり、また従来より土佐領
内では、金貨より銀貨の方が
なじみがあつたので、「一分銀

を製造している」という噂が
流されていたのであろう。尚、
上町というのは、高知城のす
ぐ近くに位置し、吉田東洋邸
にも近い場所である。

この四代目は「易学」を好んでいて、明治維新で戸籍法が整えられる過程で旧来の名字を捨て、新たに「中塾」姓を名乗るようになったが、札発行時には「中野」姓であった。中野半六家は享和三（一八〇三）年に初代が尾張藩の御用達郷十人衆に選ばれるほどの大富豪で、海運業と醸造業で財をなした。七代目の時前述の贋金騒動が起こり「酒代式合預り代銀壹匁」と「酒代壹合預り代銀五分」の酒札の発行者兼引受人になっている。尚この中野半六の旧邸宅は現在「旧中塾半六邸、半六庭園」として残っている。

初代小栗富次郎は文化二（一八〇五）年五月半田村で生まれる。幼名を寅吉といった。父の喜七は六代中野半六の船頭をしていた。喜七の家は元々相当の資産家であったが、喜七の時に不幸が相次ぎ、家の余裕もなくなった。富次郎は幼いころから中野半六家の小僧となり次いで店員となった。一八歳の時父喜七が亡くなったので、半六は父の後を継がせて同家の船頭にした。富次郎が船頭になり

初めて江戸へ行った時、父の負債が多くて荷物の大部分を差し押えられた。そこで残りの金で物資を購入し北海道に向かった。そして米や少量の物資で、鯨や鰯等の肥料と交換し北海道の物産を満載して江戸に帰った。江戸の人達はその度胸に感心したが、富次郎はこの一航海だけで父親の借金を返しただけでなく、相当の余裕も出来た。天保七（一八三六）年富次郎三二歳の時、自分の体力の限界を感じ、半六に頼んで陸上勤務に変えてもらい半六家の番頭になる。その二年後味噌の醸造を開始し、天保の末期頃には、酒造業でも江戸で販路を拡張し、その利益が大いに有ることを富次郎は着目し、半六に頼んで独立することを認めてもらった。

弘化元（一八四四）年独立して酒造業を開業した。その後は事業を拡大し、本宅、西倉、大松屋の三倉五、六千石を醸造するようになった。安政四（一八五七）年富次郎の持ち船が遠州海上で難破漂流して南洋の方に流されたが、幸いにも

英国船に助けられ、サンフランシスコ、長崎を経由して翌六年に半田に戻ってきた。帰ってきた船乗りには外国の事情を聴き、また同年横浜が開港しているのので、早速横浜へ行き、外国との貿易の事情を詳しく視察して半田に帰ってきた。以後は自ら先頭に立って外国貿易に従事し、井口半兵衛を使って事業拡大に励んだ。その結果莫大な利益を上げ、同家は富豪となった。慶応元年に富次郎は六一歳になり、家督を長男に譲り引退し、六三歳の時目を患い、六五歳の時に失明したが、それでも事業から家庭のことまで目を配らせて明治二三（一八九〇）年一月に八六歳で病死した。よって前述の酒札が発行された時は、富次郎が隠居していて失明した年であるが、札発行に関しても富次郎が二代目富次郎に何かと指導していたことだけは確かである。

さてすでに拙書である『尾張知多の豪商と紙幣』をお読み頂いた方はよくご存じかと思うが、知多半島で発行された札の実に九〇パーセントは、前述の贋二分金対策のために

発行されたものである。またその贋金の大半は、薩摩藩と土佐藩の物と言われている。前述のごとく知多半島の庶民の贋金所持高は一万六千四百四十七両であったが、この内の何パーセントが土佐藩の贋二分金であったかは、今となっては分からない。しかしこの中には確実に土佐藩の贋金も入っていたし、それが土佐藩の物であれば、当然ながらそれは坂本龍馬が製造を献策した贋二分金に間違いはない。勿論坂本龍馬が献策しなくても、いずれは土佐藩も贋金製造に着手していたことだろう。し

磐城国棚倉藩本領通用明治札に使用されている和紙の紙質について

新潟貨幣研究会 会長 坂井 司

かし坂本龍馬が岡内に薩摩の贋金の入手を命じたからこそ、土佐藩は早くから贋金製造の準備をすることが出来、官軍の江戸や東北地方の鎮撫作戦に参加できたし、知多半島にも贋金をばら撒くことが出来たのである。その結果知多半島では明治二年に大量の町村札や私札が発行されたのである。従って冒頭でも申し上げたとおり、針小な事実を拡大解釈したわけではなく、坂本龍馬は確実に知多札の発行に影響を与えていることだけは間違いない。

新年明けましておめでとうございます。二〇二六年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。二〇二五年は昨年、一昨年に引き続き、私が今一番興味のある越後国、佐渡国の古貨幣、古紙幣と越後の近隣国の藩札などの分野は入手のチャンスに全く恵まれず、また私事ながら二〇二五年一月下旬に慶事（結婚）があり古銭、古札にうつつを抜かす余裕すら無かったのではほとんど入手や研究に勤しむ事が出来ない

の記録の閲覧にご協力頂きました新潟県内及び福島県内各地の図書館の方々、今回発表したページ色の棚倉藩本領通用銭百文札を快くご割愛頂き、また棚倉藩本領通用銭五百文札の写真掲載のご協力賜りました福島古泉会鈴木正敏様、棚倉藩本領通用銭百文札並びに棚倉藩札に使用された和紙の掛軸の画像掲載にご協力頂きました日本銀行貨幣博物館ご担当者様へこの場をお借りして改めて厚くお礼を申し上げます。

二〇二六年は最近の私の収集や研究状況を鑑みて新婚生活を頑張りながら無理のない範囲で新潟県にゆかりのある古貨幣、古紙幣や興味のある地域の藩札を楽しむ事、さらにはページジュ色に近い紙質の棚倉藩本領通用銭五百文札の発見ができればと良いなあ：と新春の初夢を見つつ新春エッセイを終わりたいと思います。

最後に二〇二六年の皆様のご健勝と泉運をお祈り申し上げます。



図4 棚倉藩札に使用された和紙と同じ紙質の掛軸 (日本銀行貨幣博物館所蔵)

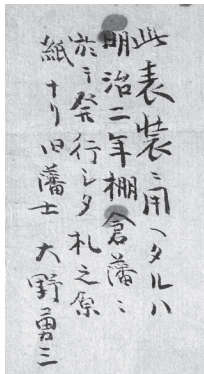


図5 大野勇三筆書き部分拡大図

別表 大阪関西万博 2025 参加国 (50 音順)

No.	国名
1	アイスランド
2	アイルランド
3	アゼルバイジャン
4	アフガニスタン
5	アメリカ合衆国
6	アラブ首長国連邦
7	アルジェリア
8	アルゼンチン
9	アルメニア
10	アンゴラ
11	アンティグア・バーブーダ
12	イエメン
13	イスラエル
14	イタリア
15	インド
16	インドネシア
17	ウガンダ
18	ウズベキスタン
19	ウルグアイ
20	英国
21	エジプト・アラブ共和国
22	エスワティニ王国 (注)
23	エチオピア
24	オーストラリア
25	オーストリア
26	オマーン
27	オランダ
28	カーボベルデ
29	ガーナ
30	ガイアナ

No.	国名
31	カザフスタン
32	カタール
33	カナダ
34	ガボン
35	カメルーン
36	ガンビア
37	カンボジア
38	北マケドニア共和国
39	ギニア
40	ギニアビサウ
41	キューバ
42	ギリシャ
43	キルギス
44	グアテマラ
45	クウェート
46	クロアチア
47	ケニア
48	コートジボワール
49	コンゴ
50	コモロ
51	コンゴ民主共和国
53	サウジアラビア
53	サモア
54	サントメ・プリンシペ
55	ザンビア
56	ジブチ
57	ジャマイカ
58	シンガポール
59	ジンバブエ
60	スイス

マイナー貨のテーマの二つとしての 二〇二五年日本国際博覧会(大阪・関西万博)

参加国リスト

熊本古銭研究会 会長 吉村 一成

令和八年が良い年に成ります様に祈っております。

もありませんが無事赤字も出さずに終わりました。

は最後です。

二〇二五年大阪関西万博が、四月一日〜一〇月一日まで開催されました。トラブル

今回のリスト(別表)は今回五〇音(あいうえお)で作成しております。主催国日本

適宜ご活用いただければ幸いです。

No.	国名
61	スウェーデン
62	スーダン
63	スペイン
64	スリナム
65	スリランカ
66	スロバキア
67	スロベニア
68	セーシェル
69	赤道ギニア
70	セネガル
71	セルビア
72	セントクリストファー・ネイビス
73	セントビンセント・グレナディーン
74	セントルシア
75	ソマリア
76	ソロモン諸島
77	タイ
78	大韓民国
79	タジキスタン
80	タンザニア連合共和国
81	チェコ共和国
82	中央アフリカ共和国
83	中華人民共和国
84	チュニジア
85	チリ
86	ツバル
87	デンマーク
88	ドイツ
89	トーゴ
90	ドミニカ共和国
91	トリニダード・トバゴ
92	トルクメニスタン
93	トルコ
94	トンガ
95	ナイジェリア

No.	国名
96	ナウル
97	ニウエ
98	ニジェール
99	ネパール
100	ノルウェー
101	バーレーン
102	ハイチ
103	パキスタン
104	パチカン
105	パナマ
106	バヌアツ
107	バプアニューギニア
108	パラオ
109	パラグアイ
110	パレスチナ
111	ハンガリー
112	バングラデシュ
113	東ティモール民主共和国
114	フィジー
115	フィリピン
116	フィンランド
117	ブータン
118	ブラジル
119	フランス
120	ブルガリア
121	ブルキナファソ
122	ブルネイ・ダルサラーム
123	ブルンジ
124	ベトナム
125	ベナン
126	ベリーズ
127	ベルー
128	ベルギー
129	ポーランド
130	ボリビア

No.	国名
131	ボルトガル
132	ホンジュラス
133	マーシャル諸島
134	マダガスカル
135	マラウイ
136	マリ
137	マルタ
138	マレーシア
139	ミクロネシア連邦
140	南スーダン
141	モーリシャス
142	モリタニア
143	モザンビーク
144	モナコ
145	モルドバ共和国
146	モンゴル
147	モンテネグロ
148	ヨルダン
149	ラオス人民民主共和国
150	ラトビア
151	リトアニア
152	リベリア
153	ルーマニア
154	ルクセンブルク
155	ルワンダ
156	レソト
157	ロシア連邦
158	日本

(注) 旧スワジランド
→エスワティニ王国
2019年・2月国名変更

木曾 山村代官井尻蔵の米切手

安藤 榮

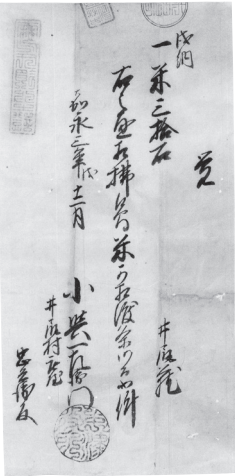


図1
尾張 山村家
米三十石 井尻蔵

「
覚

戌納

一 米三十拾石

井尻蔵

右之通相拂候間 米可相渡条仍而如件

嘉永三年戊十二月

小 與一左衛門

井尻村庄屋

忠兵衛殿

「

この米切手（図1）は井尻蔵とあり、美濃可児郡井尻村四三五石一斗六升五合の井尻村の井尻蔵米三十拾石の米切手である。上部には丸の割印が押されており読み込めば「木曾方」と読める。また、下の丸印は「中津役所」と読め、丸印の上の名は「小 與一左衛門」と読めるので中津役所の役人の名となる。井尻は現在の岐阜県可児郡御嵩町井尻

にあたり、中山道御嵩宿の少し江戸側についた東位置となり中山道筋ともなる。また、上記の中津とは岐阜県恵那郡の中津川市にあたり濃州中山道の中津川宿を中心とした中津川村となる。その中津川村の石高は一、三三四石であった。この両、御当地領主は尾張御高帳（次頁図2）により「山村甚兵衛家」の所領地とわかり、その領主の山村甚兵衛

注記のない画像は原寸ではありません